

#377 「依存心と独立精神の調和」 - 希望の光が差し込む聖書の視点 -
ヨハネの福音書 14 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

おはようございます。今日はオンラインで、聖書のメッセージを取り次がさせていただきます。早く皆様と対面で、また集会を持つことができたらいいなと心から願っています。

ところで皆さんは、筆記用具は何を使っていますか？ 私はボールペンです。視力が弱くなって、インクが濃いものでないと見づらいことがあってボールペン。その前まではずっとシャープペンシルを愛用していました。芯はいつも 4B でしたね。明確に黒くないと見にくいので。

大変便利なこのシャープペンシル、小学校では使用禁止でした。家で使うのは問題ないんです。だけど、学校にシャープペンシル持って行ったらダメだったんですね。それが非常に疑問で、「便利な物があるなら使ったらいいじゃないか。なぜ学校に持って行っちゃいけないんだ？」とずーっと疑問だったんです。

数年前、現役の小学校教師の方から理由を教えてくださいました。授業中に分解するからだそうです。小学生はとにかく好奇心が旺盛で、つい分解しちゃう。分解すると、つい部品を失くしてしまう。探していると、つい授業が分からなくなる。ということで、トラブルの原因になるんですね。良い面もあるけど、それよりも悪い面のほうが大きいのではないかと。それで、今でもシャープペンシル持ち込み禁止の小学校が多いそうです。ルールやスズメにはちゃんと理由がある、ということに改めて思いましたねえ。

イエス・キリストが仰った有名な言葉があります。

ヨハネの福音書 14 章 1 節 あなたがたは心を騒がせてはなりません。

心を騒がせてはならないにも、ちゃんと理由があります。

心を騒がすというのは不安でいっぱい、悩みでいっぱい、パニック状態。あまりにも内面・メンタルの部分が不安でいっぱいになると、良いものを見ても中々取り入れることはできないですね。

昔イスラエルに行った時、ツアーメンバーの 1 人が脱水症状を起こして大変な状態になりました。脱水状態の人に水を飲ませると吐くんです。あまりにも水分が少なくなって、身体が十分機能できなくなると、必要なはずの水を取り入れても、それを吸収する能力が無くなっているんで、取り入れることができないんですね。どうしたらいいでしょう？ 点滴です。

物理的に、口からではなく血管の中に生理食塩水を入れて水分補給するんですね。

エネルギーや命など、あまりにも大切なものが枯渇して来ると、エネルギーがあったとしても、祝福のものがあったとしても、良きものがあったとしても、それを取り入れることができなくなってしまう。そういうわけです。

ところで、この不安という問題、日本人は不安を溜め込みやすい国民だと言われています。実は、日本の中で最も売れているお薬は睡眠導入剤なんです。私は風邪薬かなと思っていたのですが、それをほるかに上回っている。

不安で疲れてヘトヘトになって。普通は、疲れてヘトヘトになったら眠ります。

でも、身体は疲れているのに眠ることができない。身体の欲求を遮るような心の不安があって、これはもう生命として大変な問題ですよね。だから、薬の力を使って眠りにつく。これも1つの方法だと思います。

なぜ不安というものは、そんなにも高じてしまうのだろう？

私も不安になる時がクリスチャンになってからもモチロンありますが、基本的に、不安を払拭できる1つの方法は、解決のための具体的行動・アクションを起こすことではないかと思うんです。

例えば、お金の不安がある場合、「ああ、どうしよう、どうしよう、不安だ」と悩んでいると、ますます悲観的になりますねえ。その場合、自分の財政状況はどうなのかを見える化するための行動を起こす。今 預貯金なんぼあるのか。収入はいくらで支出はいくらか。入って来るお金が増える見込みがないなら、出て行くお金を減らすしかないですね。つまり生活水準を一段下げてみるとか。

ここをカットすることで、少し貯蓄に回すことができるのではないかとか。

これ全部行動です。見える化。

クレジットカードの残金を確かめる。収入と支出を把握する。・・・という行動を取る。

行動して、出て行くお金を少しずつ減らして行って、少しずつでも貯まっていくようにすると、やはり不安というのは軽減されていきますね。

私はこの十数年来、同じ病院で毎年2月に健康診断を受けています。

クリスチャンが経営する病院で、スタッフも顔見知りで、私のことをずいぶん知っていてくださるのですが、十数年来言われているのは「高原さん、年々 脂肪肝大変ですよ。痩せてることと肝臓に脂肪が付いていることは別ですよ。見かけが痩せてるから健康とは限りませんよ。このままだと大変ですよ。大変ですよ！大変ですよ！！」

言われている時は「はあ〜」と聞いてるけど、私は肉が好きで、ほんとに好きな物をやめるって中々難しいですね。だけど数年前、ほんまに医者から真顔で脅されました。

「私は、高原さんにはこれからも活躍してもらいたいと思っているから言ってるんです。」

血液検査の結果とエコーと様々な医療データで、「5年後、10年後を考えてください。こうなります！」怖い写真やら説明を受けているとね、ブルブルブル、さすがにね、真顔で、脅すというよりも警告、私のことを思ってなんですが、そう言われるとさすがに不安になりました。

その不安はどうやって解消できるでしょうか。お祈り？ いいえ。行動です。

カロリー減らすという行動。睡眠時間を増やすという行動。運動のためにジムに行くという行動。

それができないなら散歩するという行動。ライフスタイルを根本的に変えるという行動。

行動すると少しずつ不安が減っていきます。これは確実です。

自分の中にある漠然とした不安はいったい何なのか。その正体を徹底的に書き出してみる。

書いてみて、その解消のためにどんな解決があるのかを考えて、具体的に行動してみる。

不安の書き出しは課題化するという事です。その課題にタスクを付けて取り組んでいくと、確実に軽くなります。そして、いつしか無くなります。

しかし、ある程度心の余裕がある時にはそうなんですが、先ほどの脱水症状みたいに、人生の根本的な土台の部分に大きな不安を抱えている場合、頭ではそうすればいいと分かっているけど、中々そこに手がつかない場合があるんですね。

なぜ生真面目な日本人が不安を溜めやすいのか。その処方箋がイエス・キリストによって語られているように思いますので、先ほども読み上げましたがもう一度読みます。

ヨハネの福音書 14 章 1 節

あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

心を騒がせてはならない。だけでなく、では どうすれば心騒がせないようにできるのか。その根本的解決・人生観・人生の土台の部分について、キリストはここで教えてくださっています。今日は 3 つのポイントで考えます。

1) 神を信じなさい。

もう少し言うと、あなたの造り主である神を、あなたの天の父として、父なる神として信頼しなさい。人生、自分一人だけで生きているのではなく、大きな力によって生かされています。あなたを生かし続けた方がおられる。その方は父なる神。あなたの作者がおられて、あなたを今まで生かしてこられたのだ。あなたを愛しておられるのだ。これが人生の土台に据えられているか いないかによって、人生への向き合い方がずいぶん変わって来るように思います。

元宝塚の男役スターで女優に転身された真矢ミキさんが、ある新聞のインタビューで自分の半生について語っていました。宝塚のスターになった後、お父さんに特等席のチケットを渡して「どうぞ見に来てください」と何回も何回も招待したけど、一度も受けてくれなかった。「ご配慮感謝しますが、ご辞退申し上げます」みたいな。晴れの舞台を見てほしいと思って一番いい席を取ってプレゼントするのですが、そのたびに辞退。とうとう一度も見えてくれなかった。

お父さんが亡くなって、遺品の整理整頓・回収のために久し振りに実家に戻り、お父さんの書斎の机の引き出しを開けてみると、なんと真矢さんの主演公演チケットの半券が山のように出て来たんです。「お父さん、来てくれてたんや。」半券の席番号を見ると、全部一番後ろの席。自分でお金を払って。

なぜ一番後ろの席なのか色々考えました。お父さんは「いい席は自分ではなく、お客さんに娘の晴れ舞台を見てもらいたい。お客さんよりも前に座るなんてことは勿体ない」と思っていたみたいです。同時に、自分が最前列にいたら、さすがに娘と目と目が合うかもしれない。自分が来ていると分かったら緊張するかもしれない。それで一番後ろの席から見守っていた。

席番号が一番後ろの席だと分かった時、真矢さんはお父さんの心に触れたような気がしたと言うのです。「私からはお父さんの姿が見えてないので、『お父さんは 1 回も見えてくれなかった』と若干不安に思っていたけど、お父さんは私のことをちゃんと見ていた。しかも他のお客さんに配慮して、邪魔にならないように、そして私自身の邪魔にもならないように、あったかい目で、聞こえない声で、声援を送ってくれていたんだ。何とも言えないあったかな気持ちになって、改めてお父さんに対する感謝が湧いて来た。」

神様の別名は父なる神です。「あなたがたの天の父は」とキリストは何度も言われました。この天の父は、聞こえない声であなたに声援を送っている方です。見えない姿であなたをご覧になり、支援し、見守っておられる方です。この方はあなたを今まで生かして来ました。あなたの人生の中で、災いが及ばないように守って来られた方です。災いがあったとしても 命を落とすところまで至らなかったのは、神の守りがあったからです。

私がまだ神を信じていない時でも、神は私を守り、生かしてくださっていたのだ。
ましてや私が神を信頼するなら、神様の力はどんなにか私の人生の中に溢れて来ることだろう。
その父なる神が私を守っていてくださったのだ、ということ信じなさい。
あなたには父なる神がおられる、ということを信頼しなさい。
これが心騒がせないための1つ目の秘訣です。

2) この神は恵みの神。

恵みとは弱いところに力を注ぐ神の愛のこと。足りないところを埋め合わせるために、惜しみなく力を注ぐ神の愛のことです。

ある方が言っておられました。「人間の骨は一度骨折すると、その箇所は二度と骨折しない。一度ポキッと折れると自然治癒力で再生するが、再生した時は骨折の前よりもはるかに強くなる。全く同じ場所を骨折することはない。その近くを骨折することはあるが、一度折れて修復がなされた時には、はるかに強靱な骨になっている。」

この人間の身体システムは、神様の恵みを表していると思いますねえ。
傷ついたところに神が介入の手を伸べられる時、前よりもはるかに傷つきにくい、逞しい力を宿すように変えてくださるんです。弱いところに働く神様の力のことを恵みと言うんですね。

2021年の流行語大賞のベストテンに入った言葉に“親ガチャ”があります。
前回の動画でも少し紹介しましたが、インターネットゲームで“ガチャ”というのがあって、これは何が
出て来るか分からない運任せなんですね。

“ある子供は裕福な親、IQが高い両親、良い家柄、教育環境が整った教育に理解ある親のもとに生まれる。
一方で、ある子供は虐待家庭、そこまで行かなくても貧しかったり、教育にあまり理解のない親だったり。
教育を受けられるか否かというのは、将来に大きく関わるじゃないか。だけど、子供は親を選べない。
自分で好きな親や家族を選んで生まれて来ることはできない。つまり、運任せで生まれて来て、ある子供
はアタリを引いたけど、ある子供はハズレだった。”

宿命論です。どういう星のもとに生まれるのか、不幸になるのかどうか、生まれた時から決まっていると
いう宿命論。親ガチャと言います。

ところが、これと正反対の考え方があるんですね。
日本が元気いっぱいだった時代（明治時代）に、100万部を超えるベストセラーが2冊ありました。
日本人口がまだ3千万人くらいしかない時に100万部。まだ書物が高価で、手に入れるのが非常に困難
だった時代にミリオンセラーになった書物です。

◆福沢諭吉の『学門のすゝめ』。「天は人の上に人を造らず 人の下に人を造らずと云（い）へり。」

◆サムエル・スマイルズの『西国立志編（さいごくりっしへん）』。
中村正直（なかむら まさなお/後にクリスチャンになります）が翻訳しました。
原題は『Self-Help/セルフ・ヘルプ』。セルフは自分自身。ヘルプは助ける。社会に助けをもらわなくて、自分で自分を助ける。なので『西国立志編』で出たのですが、今は『自助論』のタイトルで5-6種類出てますよね。色んな方が翻訳されてます。これが明治時代に大ベストセラーになったんです。

中身は約 300 人の欧米人成功者たちの物語。共通しているのは、みんなスタートが不遇なんです。親ガチャで言うなら、みんなハズレを引いた人ばかり。だけど、この本をひと言で言うと、序文にこう書いてある。中村正直の序文ですよ。「天は自ら助くる者を助く。」天とは神のこと。「神を除外して、とにかく自分の努力で頑張っていきます” じゃなくて、“神という方、与えられた人生を懸命に生きて行く人には、必ず天から助けを送ってくださる” という信仰に基づいて、ベストを尽くしてやっていく人たちの物語。

これと似たことを漫画でもやってる。皆さんは『スヌーピー』ご存知ですか？ 原題は『PEANUTS/ピーナッツ』。アメリカのクリスチャン漫画家のシュルツ。私は『聖書と福音』という番組をもう 22 年やっていますが、1 回目のメッセージはスヌーピーの話だったのをよく覚えています。

スヌーピーはビーグル犬。チャーリー・ブラウンの飼い犬。犬なんですけどね、飼われてしばらくの間は、自分が主人だと思っていたというね。閉所恐怖症の犬なので、犬小屋の屋根の上で寝るんです。中に入れへん。で、ココナッツが嫌い。なんで言うたら、作者のシュルツがココナッツ嫌い。谷川俊太郎の訳で、私もずいぶん読みました。

犬のくせにと言うか なんとと言うか、非常に哲学的なんですよ、この犬が。口の悪いルーシーという女の子がいて、ある時 スヌーピーに向かって言うんです。「私 時々思うんだけど、あなたみたいな犬が、犬のままで我慢してられるのが理解できないわ。」（あなたは自分のことを自分でよく考えて、哲学的で、人生について達観しているところがある。そんな能力を持っている犬が、犬の状態でも我慢できていることが、私には理解できないわっ。）

それに対するスヌーピーの答え。「配られたカードで勝負するしかないのさ。」

トランプゲームのポーカーで、配られたカードを見た時、「あんまりいいカードじゃないから下りる」って誰も言わない。どんなカードが配られるか分からない。いいカードの場合も悪いカードの場合もある。でも、いいカードの人が必ず勝つわけではない。悪いカードでも勝つ人がいるのです。

配られたカードは自分で選ぶわけではありません。どの親から生まれるのか、どの家族の中に生まれるのか、どの時代に、どの国に生まれるのか、自分で選ぶんじゃない。でも、配られたカードで勝負する。それが人生じゃないか。

「天は自ら助くる者を助く」という実例を 300 例挙げているのが自助論です。日本人がおしなべて貧しかった時代、明治の青年たちはこれに鼓舞されたんですね。神は助けてくださる方です。どんな人を？ 自助する人を助けてくださるのです。

自助論の中にも、「依存心と独立心は一見矛盾しているように見えるが、そうではない。この 2 つは手を携えて進んで行くものなのだ。独立心で、自分だけで生きられる人なんか誰もいない。自分一人で全てのことができる人なんか誰もいない。でも、依存心だけで、他人（ひと）に全部やらせてもらおうと思っても、それぞれに人生があるから、そんなことまで面倒見てくれないんだ。」

良い依存心と悪い依存心があると言うんです。良い依存心とは何でしょう？ 荷物を持とうとしたが、力不足でどうにも持ち上げることができない。

背負えない。誰か手伝ってくれないか。・・・良い依存心です。
出来ないことを無理にやろうとすると体壊しますから。良い依存心です。合理的です。

悪い依存心とは、“この荷物持ちたくないから、おまえが持て” という態度。
生まれた時から 人生はある種荷物のようなものですが、自分が背負うべき人生を他の人に背負わせよう
とすることは悪い依存ですよ。

でも、自分で背負うんだけど、自分だけでは無理なので助けてもらいたいというのは、なにも弱虫なので
はなく合理的です。そのように、自分の人生から逃げないで何かやって行こうとする人に、神は助けを与
えてくださると言うんですね。

私は 1 歳の時に父を亡くしました。4 歳になる前に母が再婚しましたが、新しい父は私を愛さなかった
と思います。私にはそう思えました。反りが合わなかったですねえ。非常にきつい幼少期でした。
見るに見かねて母が「日曜日、教会学校に行ってみたらどうか。」
それで私は 1 人で、母が書いた地図を頼りに教会学校の扉を叩いたのです。

あの時、もし恵まれた家庭の中にいたら、まず教会の門をくぐることはなかったでしょう。
幼くして神のを知ることはなかったと思うんですね。
残念なことに、中学校に上がると同時に、その教会学校に行かなくなりました。
しかし高校生になった時、どうしても進んで行きたい進路があって、そのためには非常に高い学力を付
ける必要があったので、Z 会という通信教育をやろう。高かったんですね。
学費・教材費を稼ぐためにアルバイトしたんです。そのバイト先の先輩がクリスチャンでした。

その人との出会いが決定的でしたね。好奇心旺盛で、何でも知りたがりの私にピッタリの答えを持って
る人だったんです。それがきっかけで、その人が行っている集会にしばらく通いましたが、でも、私は遊
ぶのも大好きだったので長続きしなかった。半年くらい行って、行かなくなったんです。
ところが高校卒業直前に、友人が学校の近くの地面に落ちていた 教会主催の映画会のチラシを拾い上げ
て、「こんなのあるから行ってみないか。」「映画かー。」

私その時、映画研究部もやってたんです。実は監督兼主演で『柔道一曲線』という映画を撮りまして、こ
れは非常に高い評価を頂いた作品でですね、文化祭で上映しました。

『いちご白書』と私の映画が同時上映で、私のが先で、いちご白書が上映されると、お客がザーッと出
て行ったのを覚えてます。今は、見るのがとても恥ずかしい映画なんですけど。

チラシは『塩狩峠 (しおかりとうげ)』という映画でした。「帰り道にあるから行ってやってもいいか」と
いう感じで その教会に行ったんですが、そこが東住吉キリスト集会でした。

20 人いない小さな集会で、男性クリスチャンが 5 人いたのですが、学生は 1 人もいませんでした。
皆ネクタイ締めて。高校生はネクタイ締めた社会人を見たら「うわ、大人やなあ。関係ないなあ」みたい
な感じ。

その集会はとっても小さな集会で、私の記憶では、年がら年中 特別集会をやってたんですね。
そして、年がら年中 色んな所からスピーカーを招いてメッセージをしてもらってたんですが、そこに通
うようになったので、年がら年中 特別なスピーカーを独占することができるようになったのです。
100 人も 200 人も 500 人もいるような所ではまず経験できないような、すごくリッチな経験をさせて
いただきました。

クリスチャンホームでなかった私が、何度神様からチャンスを得ることができたのか。
でも、行ったきっかけは、家が辛かったり、経済的に裕福でなかったり、一見ハンデに見えること。

神様は恵みの神なんです。恵みとは、弱いところに祝福を注がずにはおれない神の愛の行動のことです。
「私はなんて不遇なんだ」と今 考えている方がおられたら、ぜひ覚えてください。
神様はあなたに注目しています。恵みは弱いところ、へりくだるところ、小さなところ、そこに注がれる。
もし屈辱的な扱いを受けたら、神様の恵みが大波のように押し寄せて来ているんだ、と考えたらいかがでしょう。実際 神は私たちをそのように導くことができる方です。

3) 神を信じ、またわたし（イエス・キリスト）を信じなさい。

イエス・キリストは人となってこの世界に来てくださった 神のひとり子です。
神の子が人の子となって来てくださった理由は、**6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」**

父のみもとに行く道を授けるために、自ら道となってこの世界に来てくださった方がイエス・キリストです。
なぜ人となる必要があったのでしょうか。あなたが人だからです。
この方は自ら人となることによって、人に寄り添う 共におられる神／インマヌエルの神であることを、身をもって示してくださったんですね。

ある中学校でクラスに 1 人不登校の生徒が出て、もう何か月も来ない。先生が電話をかけたり家庭訪問したり。でも、部屋から出て来ない。クラスにちょっとオチャラケメンバーみたいな 3 人組、もうアホなことばかり言ってね。典型的男子中学生みたいな。私もそんな中学時代だったんですけど。
その男子 3 人組にね、「これから毎朝 彼の家に行って、『一緒に学校行こうよ』と声掛けてくれないか。早速明日から始めてくれないか。」3 人組は「分かりました〜。」

次の日、その子の家に行って「お〜い、学校行くぞ。一緒に行かないか〜」言おうと思ったら、なんと不登校の彼のほうから出て来た。見ると、釣りに行く出で立ち。
「お、ご苦労さんやな。学校か。俺 今から釣り行くねん」言うてね。釣りっ？！
「おまえ、学校あるぞ。」「俺 釣り好きやから 釣り行くし。仕掛け、自分で作った。」
「昼間にやっても釣れへんやろ。」「池釣りやったら関係ないから。おまえらも来（こ）うへんか？」って言われて「行くわ。」 4 人で釣り行った。

先生はびっくりしました。1 時間目、オチャラケ 3 人組がいないんですから。
いったい何があったんだろう。それぞれの家庭に電話したら「えっ、ちゃんと出ましたけど。」
夕方になってようやくつかまって、3 人とも学校に呼び出し。
「おまえら、何してたんだ！」「一緒に釣り行きました。」「アホカー！ 学校に行こうと誘いに行った者が一緒にサボって釣りして、どないすんねん！」 ずいぶんお叱りを受けたんです。
“木乃伊（みいら）取りが木乃伊になる” とは このことだと。
ところが次の日、この不登校の子が学校に来たんです。それ以来、一度も休むことがなかったそうです。

「一緒に釣り行けへんか」と言われて学校サボって行くのは、ルール上は好ましくないことかもしれませんが。しかし、少なくともこの不登校の男子には、「俺のクラスに、こんなに付き合いのいい奴らがおったんか。俺の誘いを断らずに、一緒にハメ外してくれる奴らがおったんか。」
一緒に時間を楽しんで友達になれるような人がいた。これが、「もう一度学校に行ってみるか」と思う大きなきっかけになったと言うのです。寄り添うって、そういうことじゃないですか。助けになったんですね。

なぜキリストは、人となってこの世界に来られたんでしょう？ 寄り添うためです。
病に伏せている人を癒し、罪におののいている人に赦しを与え、死に怯えている人に永遠のいのちがあることを教え、また生き返らせ、神が一人ひとりにどんなに目を留めておられるかを、現実世界の中で、目に見える形で具体的に示して下さったんですね。
寄り添ったのです。一緒に泣いたり、一緒に笑ったり、共に歩んだりされたんです。

しかし、一緒に歩むために・人生を共有するために来られたキリストは、最後の最後・一番きつい場面については、人にそれを負わせることはありませんでした。十字架です。
キリストは全く罪の無い方であったのに、2000年前に十字架に釘づけにされて、人から捨てられ、弟子から見限られ、最後 神からも見捨てられました。

なぜ神はイエス・キリストを見捨てなければならなかったのでしょうか？
見捨てられなければならない理由をイエス・キリストが背負って下さったからです。
それは罪です。私たちの全ての罪。父の元に行くことを妨げている大きな問題。
この罪をイエス・キリストはたった 1 人で背負い、十字架に掛かってご自分のいのちで償いを果たし、永遠に解決して下さったのです。

道とは自分を踏んで行く者を目的地に届けるもの。キリストは人に踏みつけにされながら「父の元に帰ってくれ！」とあの十字架に掛かり、死んでくださいました。私はこれ以上の愛を知りません。
このキリストの十字架。そして、墓に葬られて 3 日目に死を突き破ってよみがえられた 復活。
この 死んでよみがえった方こそがあなたの救い主です。

死という大問題ですらも解決して下さった方が、あなたと共に人生を歩んでくださるとするならば、不安の解決となるのではありませんか。
この方がエスコートして下さるなら、この方があなたの味方になって下さるなら、私たちは勇気を得て、問題に立ち向かって行くことができるのではありませんか。

キリストは今も生きておられる神、あなたの救い主です。
[わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。](#)
言い換えれば、[わたし](#)／イエス・キリストを通して行くなれば、どんな人でも父の元に帰ることができます。
1 回しかない人生を、神の現実を濃厚に経験しながら生きて行く人生に転換していただくことができるのですね。

ぜひイエス・キリストを信じて、永遠のいのちを頂いてください。心からお勧めします。



- * 使用した聖書は『聖書 新改訳 2017』
- * 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」
- * ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約 15 分) もぜひどうぞ。YouTube もあります。
- * YouTube 「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。